

世田谷村日記

石山修武

三月七日

十時研究室。定例ミーティング。十三時半松下電工打合わせ。二十一時迄各種打合わせ。二十二時世田谷村に戻る。大阪のM氏と電話で話す。安藤忠雄氏より手紙届く。次女友美とパークレイでバッテリー会ったらしい。

三月八日

九時前まで眠ってしまった。

青山のときの忘れもので版画展が開催されているようで、私のモノも若干展示されているらしい。顔出してみるかな。四月十六日から渋谷の文化村で「イメージの中に建つもの」という建築家の版画展が開かれる旨綿貫さんから知らせがあった。知らぬところで作品が独人歩きしてくれるのは嬉しい事だ。

午後、博士課程学生二名相談。十五時過目白GKへ。日本フィンランドデザイン協会理事会。静けさのパピリオンの経過報告。栄久庵憲司の三重県道具寺も進行中のようにだ。十七時迄の予定が延びて、二〇時過迄。二十一時過世田谷村に戻る。

三月九日

七時起床。昨夜来銅版画の構想を暖めていたので、今日は午後遅くまで銅版に取り組む予定。十時一点仕上げた。朝刊に結城登美雄さん芸術選奨受賞の報道あり、早速お祝いの電話を入れる。

都はるみと同時受賞がよいと喜んでた。友人の受賞は、本当の

ところ嬉しくないものだとは、山本夏彦の言であるが、コレはチヨツと違う。私も嬉しい。分野が違うからか、結城の人徳かな。十一時過二点目も仕上げた。銅版に何を彫り込んでいるのか自分でも定かではない。歩くアンモナイトや石の魚、そしてカイラーサ山と覚しきが出てくるのだが何故だか知らぬ。何かの記憶を彫っているのは間違いが無いのだが、どれ程昔の記憶なのかは不明。十二時朝昼飯を食べて、一休み。これからの仕事の展開についてノートする。十五時研究室全体ミーティングと四月以降の基本方針を述べ討議。

二十二時四〇分迄研究室で雑談。二十三時十分京王線車中、世田谷村へ。